様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：３４１０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2016
課題番号：２４５９３２６３

研究課題名（和文）ジェネラリストナースの管理調整機能の全体像を明らかにする

研究課題名（英文）Clarifying the overall vision of generalist nurses' management adjustment functions

研究代表者
久米　龍子（KUME, Ryuko）

四日市看護医療大学・看護学部・教授

研究者番号：２０３６３９１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、病院の医療現場でジェネラリストナースが発揮する機能に着目している。それは、病棟等で医療専門職の良好な連携を図り、医療現場で発生する種々の問題解決を図る極めて重要な管理調整機能である。本研究は、その機能の全体像を明らかにすることを目的とし、全国の一般病床200床以上の190病院の9324名の看護師を対象に、看護業務の管理的重要性について無記名アンケート調査を実施した。その結果、看護師が行う業務全体の中で、患者の状態を観察すること、医師の指示確認、医師から指示された注射の実施、転倒や転落のリスク把握、患者の痛みへの対応は管理的重要性が高いと認識されていることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the function that the generalist nurse exerts at hospital medical scene. It is an extremely important management adjustment function that aims to achieve better collaboration among medical professionals in wards and the like and to solve various problems occurring in the medical field. This research aims to clarify the overall picture of its function. We conducted an unsigned questionnaire survey on the administrative importance of nursing work for 9324 nurses in 190 hospitals over 200 beds in the general hospital nationwide. As a result, the tasks recognized as having high administrative importance among the entire work performed by the nurse are to observe the condition of the patient, to confirm the instruction of the doctor, to make the injection instructed by the doctor and to manage the risk of falling down/overturn.

研究分野：看護管理学

キーワード：ジェネラリストナース　管理調整機能

１．研究開始当初の背景

医療専門職である看護師が医療現場において行う活動は、当然のことながらエビデンスにもとづき実践される看護の技術でなければならない。看護師は日常的に医療現場における種々の問題に遭遇し、それを解決するために管理調整機能を発揮していると考えられ、そこには体験やエビデンスに基づいて実践される看護の技術があると考えられる。しかしながらこの管理調整機能について、看護師が勤務する現場から得られたデータに基づいて実証的に論じた研究が見当たらず、加えて医療チームにおける看護師の管理調整機能の全体像を明らかにした研究も調べた限り見当たらなかった。諸文献において、医療チームの良好な連携を図るうえでかかせない看護師の重要な役割であると抽象的には説明されているが、具体的な内容は何ら示されていない。

私たちはこれまで、病院の病棟や外来などにおける看護師の活動について組織論的観点から考察してきた。その研究成果より、医療が実践される現場を人々の活動からなる一つの組織とみれば、看護師がその活動を調整し組織維持をはかる中心的存在であるとみることが極めて自然であると考えられた。その研究成果を踏まえ、これを発展させるべく次に行うことは、病院実態調査の実施により、今までの研究成果の妥当性を実証的かつ統計的に明らかにすることではないかと考え、本研究の着想に至った。

以上のことから、本研究により看護師の管理調整機能の全体像を明らかにしたいと考えた。

２．研究の目的

ジェネラリストナースとは、医療現場の看護の実践において、疾患や患者の違いを問わず基本的看護ケアができる看護師のことをいい、医療現場で働く看護師の大部分が該当する。これらジェネラリストナースは、病棟や外来等の医療現場において、医療専門職の良好な連携を図り、医療現場で発生する種々の問題解決を図るために極めて重要な管理調整機能を発揮していると考えられている。しかし、その機能の実態については研究がなされておらず、具体的内容で構成された全体像は不明である。

本研究は、聞き取り調査と、その結果をもとにした調査票による全国的な調査から、ジェネラリストナースの管理調整機能の全体像を明らかにすることを研究目的とする。

３．研究の方法

（１）看護師への聞き取り調査

第一段階は、愛知県内の病床数 200 床以上の一般病院に所属する看護師を調査対象とする聞き取り調査である。調査対象施設長に調査依頼文書郵送による調査依頼を行ない、調査協力への回答は返信用はがきの返送でいただいた。協力可能施設は１施設、協力看護師は 27 名であった。調査は平成 25 年 2 月より約１か月間かけて実施した。調査協力病棟看護師の訪問の日程等は、調査協力窓口担当者と相談し決定した。約束の日時に病棟看護師に面談し、日常遭遇している対応に苦慮する種々の問題とその解決方法について自由に話をしていただく方法で、１時間程度の聞き取りを行った。聞き取りの際は、面談用の個室を借用し、許可を得てメモをとりながら行ない、聞き取り内容を清書し調査協力者へ郵送し、内容確認および修正箇所の記入等をしていただき、同封の返信用封筒で返送してもらった。内容が確認された聞き取り内容をデータベースに入力し、データの分析と項目分類を行った。

（２）全国無記名アンケート調査

第二段階は、全国の一般病床数 200 床以上の病院の病棟に勤務する看護師を対象とする、無記名アンケート調査である。全国の 1,300 病院の病院長および看護部長に対し、文書により調査を依頼した。書面により協力が得られた 190 病院の看護師（看護師長を除く）9,324 名を対象に実施した。調査期間は平成 28 年度である。質問紙は聞き取り調査の結果を参考に作成した。質問項目は、属性及び現在の勤務部署に関する質問 12 項目と看護チームの業務全体からみて時の各業務の管理的急用性の認識に関する質問 38 項目の併せて 60 項目である。アンケートの返信は 4,318 通、回収率は 46.31%であった。

なお、調査は学内生命倫理委員会で研究倫理審査を受け承認を得た後に実施した。

４．研究成果

データ分析は解析ソフト SPSS Statistics Ver.21 を使用した。

１）対象者の属性

性別は、女性 94.2%、男性 5.8%であった。

年齢の平均値は 36.2 歳であった。

所持している看護職免許の種類は、看護師他にもう 1 種類所持している人の割合は 18.1%であった。免許の種類は、准看護師が 44.9%、保健師が約 43.6%、助産師が 11.5%であった。さらにもう 1 種類所持している人の割合は 1.4%で、免許の種類は助産師であった。

最終看護基礎教育機関は、割合の高い上位３位は、専門学校（3 年課程）が 56.6%、専門学校（2 年課程）が 16.4%、大学が 12.7%の順であった。

勤務病院の設置主体は、割合の高い上位３位は、都道府県・市町村が 27.8%、私立学校法人が 17.9%、医療法人が 13.4%であった。

対象者が現在所属している部署は、割合の高い上位３位は、外科系 28.1%、内科系 27.6%、内科系と外科系の混合病棟 24.9%であった。

現在の職位は、常勤のスタッフナース

77.0%、副看護師長（あるいは主任等同等の職位）21.6%、非常勤スタッフナース 1.4%であった。
　現在の部署における経験年数は、平均４年、最長 34 年、最短 0 年であった。
　これまでのすべての看護職としての経験年数は、平均 13 年、最長 44 年、最短 0 年であった。
　対象者の勤務部署の看護師配置基準は、7：1 が 73.6%、10：1 が 14.3%、13：1 が 4.3%を占めていた。
　現在の夜勤勤務体制は、二交代制が 56.4%、三交代制が 25.6%、ニ交代と三交代の混合が 12.7%を占めていた。

２）看護師業務の管理的重要性の認識
　回答結果のデータの中央値から、看護師が行う業務全体の中で、患者の状態を観察すること、医師の指示確認、医師から指示された注射の実施、転倒や転落のリスク把握、患者の痛みへの対応は管理的重要性が高いと認識されていた。

３）最終学歴による管理的重要性の認識の違い
　大学卒と大学卒以外の 2 群で、マンホイットニーの U 検定を実施した。その結果、ナースステーションに必ず看護師の誰かがいること、看護師の化粧の適切性を考えること、病棟内で看護師同市の笑い声や世間話に気をつけること、暴言や暴力、セクハラを行う患者に適切な対応を考えること、患者の病室希望を把握すること、医師が書くべき書類と看護師が書くべき書類を明確にすること、患者に対する説明と同意に関する医師と看護師の役割分担を明確にすること、患者や患者の家族が担当医師に対して不満を感じている場合に、そのことを医師に伝えること、看護チームのチームワークを良くすること、の９項目について、大学卒よりも大学卒以外の看護職者の方が有意に高く、それらの管理的重要性を認識していた。

４）現在の職位による管理的重要性の認識の違い
　副看護師長、スタッフナース（常勤）、スタッフナース（非常勤）の 3 群で、クラスカル・ワリス検定を実施した。その結果、看護記録の記入、医師とのカンファレンスで看護師の立場から意見を言うこと、言葉遣いに気をつけること、看護師による説明内容を一致させること、病棟内で看護師同市の笑い声や世間話に気をつけること、患者の眠れないと言う訴えに対応すること、暴言や暴力、セクハラを行う患者に適切な対応を考えること、転倒・転落についての患者のリスクを把握すること、ケースワーカーとの連携を密にすること、患者の病室希望を把握すること、患者の病状にあわせて病室内のベッドの場所を調整すること、家族から看護師へのクレームに対応すること、の 12 項目について、スタッフナースよりも副看護師長の方が有意に高く、それらの管理的重要性を認識していた。

５）所属部署による管理的重要性の認識の違い
　内科系、外科系、内科系と外科系の混合の 3 群で、クラスカル・ワリス検定を実施した。その結果、3 群で有意な差が見られた項目は、時間ごとの体位変換、看護記録の記入、ナースコールへの対応、患者の様々な治療上の制限を守ってもらうための対応、患者の状態を観察すること、転倒・転落についての患者のリスクを把握すること、の 6 項目であった。

６）研究成果の位置づけ・今後の展望
　本研究の成果は、病院の看護師が保健師助産師看護師法第五条で示されている看護師の業務のうち、診療の補助に相当する業務を重要視している現状を明らかにした。診療の補助業務の実態は、患者の生命の安全を第一義とする病状管理を指していることから当然の結果と考えられる。そして、病院における看護師の業務は管理調整機能という観点から重要度が位置づけられた全体像であることを示唆したことは大きな成果であると考える。
　今後の展望として、看護師の業務増大により、他職種への業務委譲を考える必要性が生じた場合に、本研究の成果は何が委譲することができない業務であるのかを判断するうえで重要な判断基準になり得ると考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　0　件）

〔学会発表〕（計　0　件）

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
久米　龍子（KUME Ryuko ）
四日市看護医療大学看護学部・教授
研究者番号：20363913

(2)研究分担者
久米　和興（KUME kazuoki　）
中部大学生命健康科学部・教授
研究者番号：40153358

(3)連携研究者　なし

(4)研究協力者　なし